

概要版

横浜市スポーツ推進計画 (中間見直し)

～スポーツで育む地域とくらし～



平成 30 年 3 月
横浜市

1 策定の目的

スポーツを通じて、子どもから高齢者まで全ての市民がいきいきとした生活を送るとともに、地域住民の交流や心豊かなくらしができるよう、市民の多様化するニーズを把握し、子どもの体力向上や市民の健康づくり、また、大規模スポーツイベントを開催することによる横浜の発信力の強化や地域の活性化などに取り組む必要があります。

そのために、横浜市の現状や課題を踏まえつつ、横浜の置かれた特性を生かしながら、スポーツ振興の方向性を体系的に示し、スポーツ施策をより一層効果的・効率的に推進していくことを目的として、新たなスポーツ推進計画を策定しました。

2 計画策定(中間見直し)の位置づけ

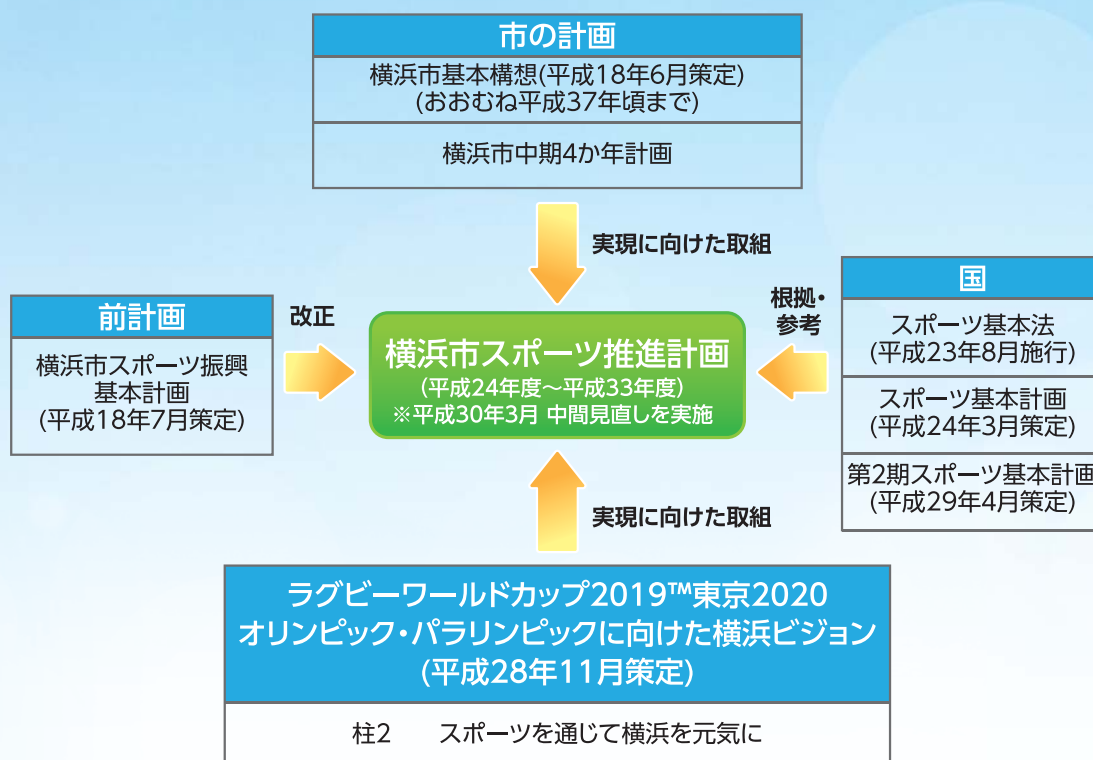
(1) 横浜市スポーツ推進計画について

横浜市の将来の都市像を示す「横浜市基本構想」(長期ビジョン)及び「横浜市中期4か年計画」に掲げている目指すべき都市像の実現に向け、スポーツに関する施策について、具体的な取組を示した10年間の計画です。

平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」に基づき、国の「スポーツ基本計画」を参考にしながら、「第22期横浜市スポーツ推進審議会」、市民の皆様、スポーツ団体等から意見をいただき、平成25年3月に策定しました。

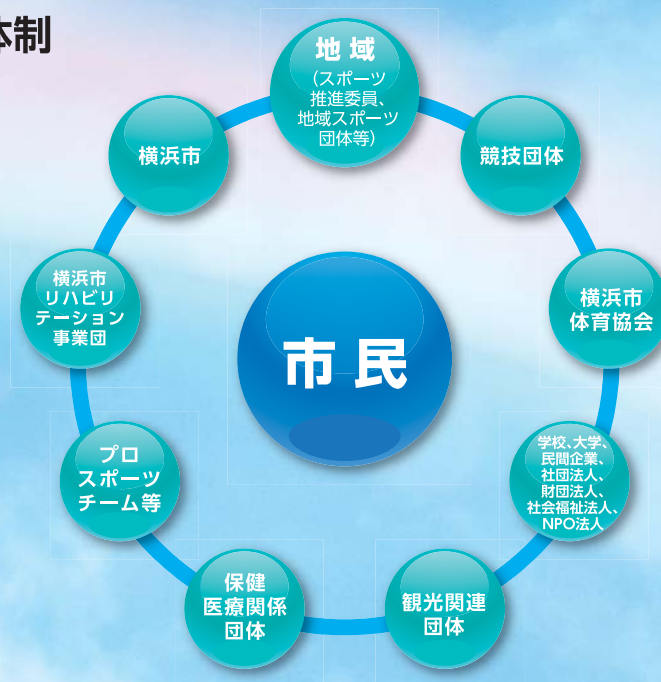
(2) 中間見直しについて

計画の進捗状況、社会経済情勢、国の政策動向等の変化に対応するため、「第2期スポーツ基本計画」を参考にし、「第24期横浜市スポーツ推進審議会」の意見等を踏まえ、平成29年度に中間見直しを行いました。



3 計画の実現に向けた連携・協働体制

横浜市スポーツ推進計画で定めている目標は、行政だけでは、到底、達成することはできません。市民の皆様をはじめ、スポーツ推進委員や、地域スポーツ団体、競技団体、横浜市体育協会、学校、大学、民間企業、社団法人、財団法人、社会福祉法人、NPO法人、観光関連団体、保健医療関係団体、プロスポーツチームをはじめとするトップスポーツチーム、横浜市リハビリテーション事業団、及び横浜市が、それぞれの役割や責任を踏まえ、連携・協働して、計画の実現を目指します。



4 ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック・パラリンピックを契機としたさらなるスポーツ振興に向けて

NEW

2019年に行われるラグビーワールドカップ2019™では、決勝・準決勝をはじめ、世界トップレベルの試合や日本代表戦等、全世界から注目される7試合が横浜国際総合競技場で開催されます。翌年の東京2020オリンピック・パラリンピックでは同じく横浜国際総合競技場でサッカー競技が開催され、また、横浜スタジアムで野球・ソフトボール競技が開催されるなど、ここ横浜を舞台に、世界的なスポーツイベントが2年連続して開催されます。

さらに本市は、慶應義塾、川崎市とともに英国オリンピック代表チームの事前キャンプ地に決定しています。

両大会の成功に向けた取組はもちろん、小・中・特別支援学校等へのトップアスリートの派遣をはじめ、スポーツボランティアの育成支援、キャンプチーム等との交流など、さらなるスポーツ振興に取り組むとともに、次世代を担う子どもたちへの「贈り物」となる有形無形の「レガシー」を創出していきます。

ラグビーワールドカップ2019™ 大会概要

- 1 開催期間 2019年9月20日(金)～11月2日(土) (44日間)
- 2 参加チーム 20チーム
- 3 試合数 48試合(予選40試合、決勝トーナメント8試合)
- 4 試合会場 全国12会場で開催 <決勝戦> 11月2日(土) 横浜国際総合競技場

横浜市では、決勝戦、準決勝2試合及びプール戦4試合の計7試合を実施

東京2020オリンピック・パラリンピック 大会概要

1 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

- (1) 開催期間 2020年7月24日(金)～8月9日(日) (17日間)
- (2) 競技数 33競技

2 東京2020パラリンピック競技大会

- (1) 開催期間 2020年8月25日(火)～9月6日(日) (13日間)
- (2) 競技数 22競技

横浜市では、サッカー競技及び野球・ソフトボール競技を実施

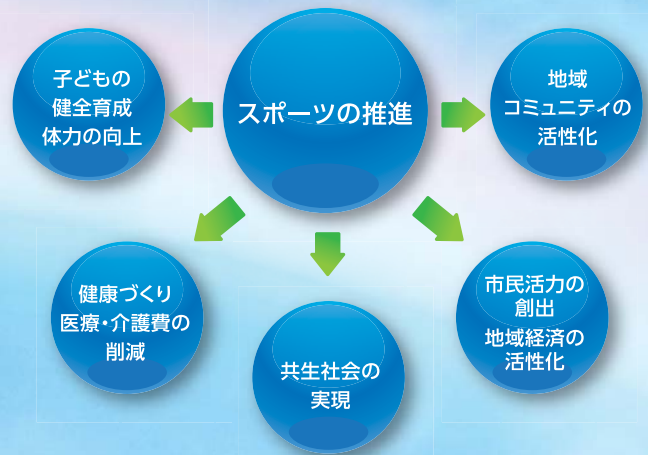
5 スポーツ推進の意義

スポーツを推進することは、子どもの心身の健全育成や体力の向上、生活習慣病予防による医療・介護費の削減の効果があります。

少子高齢化の進展や、生活が便利になること等により体を動かす機会が減少している現代社会において、生涯にわたりスポーツに親しむことは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらします。

そして、障害の有無等に関わらず、すべての人々が分け隔てなくスポーツに親しむことで、誰もが互いに尊重し支え合う共生社会の実現が期待されます。

また、多世代交流や地域間交流を促進し、地域の一体感を醸成することで、地域コミュニティの活性化や市民活力の創出、地域経済の活性化等の効果も期待されます。



6 スポーツ推進の基本目標

横浜市スポーツ推進計画は、スポーツを通じて、子どもから高齢者まで全ての市民がいきいきとした生活を送るとともに、地域住民の交流や心豊かなくらしを育むことを目指します。

その際、スポーツを実際に「する人」だけではなく、トップレベルの競技大会やプロスポーツの観戦等のスポーツを「みる人」、そして指導者やスポーツボランティアといった「ささえる人」にも着目し、市民が生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整えます。

目標1 子どもの体力向上方策の推進

目標値 子どもの体力を横浜市の昭和60年頃の体力水準に回復します。

※子どもの頃に、身体を動かす楽しさや喜びを味わうことで、生涯にわたってスポーツに親しみ、身体を動かす機会が増大することで、結果として、体力水準の高かった横浜市の昭和60年頃の水準に回復することを目指します。

目標3 高齢者・障害者スポーツの推進

- 目標値**
- ①高齢者スポーツの推進
65歳以上の週1回以上のスポーツ実施率が70%程度となることを目標とします。
 - ②障害者スポーツの推進 **NEW**
障害者(成人)の週1回以上のスポーツ実施率が40%程度となることを目標とします。

目標2 地域スポーツの振興

目標値 成人の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度(3人に2人)、週3回以上のスポーツ実施率が30%程度(3人に1人)となることを目標とします。
また、スポーツボランティアを行ったことがある市民の割合が10%以上となることを目標とします。

目標4 トップスポーツとの連携・協働の推進

目標値 トップアスリートが参加するスポーツ大会やプロスポーツを間近で観戦した市民の割合が50%以上となることを目標とし、市民がトップアスリートに触れる機会を増やし、スポーツを行う意欲の向上につなげます。

※中間見直しに伴い、計画策定当初との比較により新規・拡充・継続・変更の4つに分類しています。

継続

取組1

幼児期における運動習慣の啓発・普及活動の推進

体力の重要性に関して、保護者への啓発セミナーや、インターネットや乳幼児健康診査等を活用した情報提供について検討します。

また、親子で体験できる各種運動プログラムの提供や、保育所、幼稚園、地域子育て支援拠点等にスポーツ指導者等を派遣し、遊びながら体を動かす楽しさを伝える事業を行います。

継続

取組2

学齢期の子どもの体力向上事業の実施及び拡充

学校の特色を生かした体力向上1校1実践運動の実施、地域人材等の協力による休み時間や放課後を活用した運動機会やプログラムの提供、部活動指導員等の活用やオリンピック・パラリンピアンとの交流機会の提供等を行います。

また、地元大学等と連携し、学校や地域にスポーツ指導者等を派遣し、授業の補助やスポーツ教室の事業等を行います。

継続

取組3

食育の推進

日常生活をより健康的に送り、スポーツを活発に行うために、スポーツ団体（プロスポーツチームを含む）、教育委員会や食育関係団体と連携・協力しながら、子どもや保護者及び指導者等に食育の普及啓発を行います。

継続

取組4

総合型地域スポーツクラブの育成・活動支援及び連携・協働の推進

総合型地域スポーツクラブへの助成金交付や研修の実施、連絡協議会の開催等の運営支援を行うとともに、新たなクラブの発掘・育成に取り組みます。

また、広報や啓発イベント等を通じ総合型地域スポーツクラブの認知度を向上させるとともに、総合型地域スポーツクラブと地域との連携強化に向けて支援を行います。

拡充

取組5

トップアスリートとの連携・協働の推進

ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、ラグビー日本代表選手等やオリンピック・パラリンピアン等を小・中・特別支援学校等や市内で開催されるスポーツイベント等に招へいます。スポーツ教室や講演会等を通じて、子どもたちをはじめ、多くの市民が一流のアスリートと触れ合う機会を創出し、スポーツに取り組む意欲を高めます。

継続

取組6

プロスポーツチーム等との連携・協働の推進

地元プロスポーツチーム等と連携し、スポーツ教室など市民が直接チームに触れる機会を提供します。

また、チームの活動や試合日程等の広報活動を充実し、市民のスポーツへの関心を高めます。

継続

取組7

地域スポーツ指導者の養成・活用

地域のスポーツ振興のために活動できる人材を養成する「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」を実施します。

また、「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」の修了者や現場で活躍している地域のスポーツ指導者に対しても、地域のニーズに応じた指導内容や方法などの研修を充実するとともに、ニーズに応じた指導者を紹介するシステムの活用を促進します。

拡充

取組8

大規模スポーツイベントの誘致・開催支援

国際大会や全国大会などの大規模イベントの誘致や、ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック・パラリンピックの円滑な大会運営に取り組み、さらにファンゾーンやパブリックビューイングの実施など市民が開催競技に親しむ環境を作ること、市民のスポーツ観戦やボランティア活動に参加する機会を増やします。

これらの大規模イベントの開催を通じ、世界や全国に向けた横浜の知名度のアップや、経済及び地域の活性化などにも貢献します。

継続

取組9

横浜マラソンの実施

本大会を含め、プレイイベントや区局と連携した横浜マラソンチャレンジ枠事業等、様々な関連イベントを実施することで、市民の健康増進やスポーツ振興を図ります。さらに大会参加者だけでなく、ボランティア、応援者など多くの人が横浜を訪れることで、シティセールス効果や経済波及効果も期待できる「する」「みる」「ささえる」全ての人が楽しめる大会として実施します。

継続

取組10

市民参加型スポーツイベントの充実

スポーツ・レクリエーションフェスティバル、ビーチスポーツフェスタ、市民大会・区民大会など、市民が気軽に参加でき、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントの充実を図るとともに、初心者安心して参加できる環境を整えます。



(C) YDB



(C)1992 Y.MARINOS



(C) YOKOHAMA.FC



(C) B-CORSAIRS

横浜DeNAベイスターズ、横浜F・マリノス、横浜FC、横浜ビー・コルセアーズのスポーツ教室・学校訪問



(C) Shinji KAWATA JTU

世界トライアスロンシリーズ横浜大会



横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル



横浜マラソン

拡充

取組11 国際交流の推進

横浜市のパートナー都市・姉妹都市との交流や、ラグビーワールドカップ2019™における公認チームキャンプの受入れ、東京2020オリンピック・パラリンピックにおける事前キャンプの受入れやホストタウンの取組等を行い、スポーツを通じた国際交流を推進します。

継続

取組12 全市民で取り組む健康づくりの推進

「第2期健康横浜21」に基づき、地域や関係団体、企業等と連携し、生活習慣の改善や運動の習慣化など、市民の健康づくりを後押しする取組を進めます。

特に、日常生活の中で楽しみながら健康づくりに取り組める「よこはまウォーキングポイント事業」などを活用し、健康づくりになかなか取り組めない方等へのきっかけづくりや、健康行動の継続につながる活動を広げます。

継続

取組13 働き世代・女性のスポーツ・運動の推進

スポーツ実施率の低い世代(特に20代・30代)をターゲットとしたイベントの開催、普及啓発を行うとともに、健康経営に取り組む事業所の認証や、事業所内でできる運動プログラムの提供等の支援を通じて運動習慣の定着化を進めます。

また、子育て中の女性でも気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することで、働き世代や女性のスポーツ・運動を推進します。

継続

取組14 スポーツ・レクリエーション活動の推進

地域スポーツ・レクリエーション団体と連携し、子どもから高齢者まで、楽しく、気軽に参加できるウォーキングイベントや親子ふれあい体操、野外活動等のスポーツ・レクリエーション活動の充実を図ります。

また、おすすめのウォーキングコースをホームページや情報誌で紹介していきます。

拡充

取組15 スポーツボランティアの育成・活用支援

横浜市スポーツボランティアセンターを通じ、市内の大規模スポーツイベント等のボランティアの募集・登録や研修等の人材育成を行い、市民が積極的・自発的にスポーツに関わる体制作りやその支援を行います。

また、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を通じて、市民がボランティア活動に参加する機会を創出します。

変更

取組16 スポーツツーリズムの推進

スポーツを観光資源とした横浜らしい地域づくりを図るため、トップスポーツチームや地域スポーツ団体及び地元企業等と連携・協働し、スポーツイベントの誘致・開催支援を行うとともに、プロスポーツチーム等の試合観戦やラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピック開催の機会を最大限に活用し、地域や経済の活性化を目的としたスポーツツーリズムを推進します。

継続

取組17 スポーツ情報等の提供

市民が「する」「みる」「ささえる」といったスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報や、スポーツ指導者、スポーツ施設の利用に関する情報等を横浜市のホームページや広報紙、横浜市体育協会のスポーツ情報サイト「ハマスポ」、SNS等、多様なメディアを連動させ、スポーツ情報を提供します。

また、ウェブ上で提供される情報や機能を、高齢者や障害者等、誰もが支障なく利用できるよう、ウェブアクセシビリティの向上に取り組みます。

継続

取組18 スポーツ推進委員や、地域スポーツ団体、地域スポーツ・レクリエーション団体、企業との連携・協働の推進

スポーツ推進委員や、地域でそれぞれ活動している地域スポーツ団体、地域スポーツ・レクリエーション団体、企業と連携・協力しながら、年齢や性別、技術等に関係なく、誰でも身近な地域で気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整えます。

変更

取組19 身近なスポーツを行う場や機会の確保

身近なスポーツの場について積極的な情報提供や、既存の施設や未利用地等の有効活用を行うとともに、学校施設の夜間照明設置の検討を行い、健康づくりや身近なスポーツを行う場や機会を確保します。

また、道路・河川・公園緑地などを活用し、地域と連携をしながら、健康増進や外出意欲の向上につながるような魅力的な歩行空間やウォーキングルートの整備を進めます。

継続

取組20 横浜文化体育館(メインアリーナ施設・サブアリーナ施設(横浜武道館))の再整備

関内駅周辺地区のまちづくりのリーディングプロジェクトとして、横浜文化体育館の再整備を進めます。再整備後の施設はメインアリーナ施設とサブアリーナ施設の2つの施設とし、サブアリーナ施設を「横浜武道館」とします。

再整備と並行して、横浜スタジアムや市庁舎跡地の活用の取組と連携し、スポーツを生かしたまちづくりによるスポーツ振興の取組を進めます。

横浜文化体育館の再整備



メインアリーナ施設



サブアリーナ施設(横浜武道館)

※上記は事業者から提案資料として提出されたものであり、実際の建物とは異なる場合があります。

継続

取組21 学校体育施設(校庭、体育館等)を活用した地域スポーツの振興

学校体育施設を活用し、地域のスポーツ振興のため、総合型地域スポーツクラブや学校開放事業の運営主体である文化・スポーツクラブが子どもや地域住民を対象に実施するスポーツ教室等のプログラムに対し、支援を行います。

継続

取組22 横浜市スポーツ医科学センターとの連携・活用

横浜市スポーツ医科学センターを活用し、スポーツ事故の防止及びスポーツ障害の予防・早期発見に関する知識の普及・啓発を行います。また、横浜市スポーツ医科学センターと各区スポーツセンターが連携・協力することにより、スポーツによる市民の健康づくりの推進や、競技選手の競技力の向上を図ります。

継続

取組23 スポーツ遺産の保存・活用

横浜はテニス、ラグビー、競馬、スポーツクラブ等、多くのスポーツ文化の国内発祥の地であり、その歴史や伝統を継承していきます。国内、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックの世界三大スポーツイベントの開催実績を持つこととなる横浜国際総合競技場等のスポーツ施設やボランティア等の人的資源、大規模スポーツイベントの運営知識やノウハウなどのスポーツ遺産を未来の横浜の子どもたちへの財産として残します。

継続

取組24 高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施

高齢者のニーズが高い健康・体づくり、介護予防など、様々な身体状況にある高齢者が参加できるよう、多様なニーズを考慮しながら、シニアスポーツ教室やニュースポーツイベント、講座、教室等の充実をはかり、ロコモティブシンドロームや生活習慣病の予防、重症化予防につなげます。

継続

取組25 地域の高齢者サークルの活動支援の推進

高齢者向けのサークルや健康・体づくりを行っているグループ等が、継続的に活動ができるよう講師の派遣や研修、情報提供等を通じ、支援を行います。

新規

取組26 障害者が幼児期から運動に親しめる環境の整備

障害児が地域療育センター・学校・地域等で参加できる運動プログラムの充実や、保護者に対する普及啓発に取り組むとともに、トップ選手やチームとの交流・イベント等を通じ、障害者が幼児期から運動に親しめる環境を整備します。

変更

取組27 地域での障害者スポーツ・レクリエーション活動の推進

地域団体・横浜市体育協会・横浜ラポール等が連携した地域ネットワークの構築支援や、新たに設置する障害者スポーツ・文化活動南部方面拠点を活用し、地域スポーツ指導者との連携を進め、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。また、各区のスポーツセンター等で障害者スポーツの指導員の配置や用具の充実等を図り定期的なプログラムの提供を行うことや、障害者やその家族にとってより分かりやすいスポーツ施設等の情報発信を行います。これらの取組を通じ、地域での障害者スポーツ・レクリエーション活動を推進するとともに、地域での活動の場や機会を充実させることで、スポーツを通じて地域や障害者とその家族同士の交流を深めます。

継続

取組28 障害者と健常者がともに楽しめるインクルーシブスポーツの推進

障害者と健常者が共に楽しむことができるイベントや大会の開催や、その支援を行うとともに、横浜ラポール、障害者団体、競技団体、地域団体が連携しながら、各区のスポーツセンター等、地域で障害者・健常者がともに楽しめるインクルーシブスポーツを推進します。

変更

取組29 障害者スポーツの支援者の育成・活躍支援

スポーツ施設の職員、競技団体、地域団体へ研修等の参加を促すなど、障害者アスリートの指導者、障害者スポーツ指導員、ボランティア、企業等、多様な障害者スポーツ支援者を育成します。また、横浜市体育協会のスポーツ情報サイト「ハマスポ」への登録を促す等、育成した人材の活躍を支援します。

変更

取組30 障害者スポーツに対する理解の促進

パラリンピアンによる学校訪問や普及啓発イベントの開催、障害者スポーツ体験会等を実施し、障害者スポーツに対する理解の促進を図ります。



障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール



パラリンピアンによる学校訪問(講演)



ハマピック(障害のある方を対象とした競技会) 卓球

横浜でスポーツを

する



みる



ささえる



策定：平成 30 年 3 月

お問い合わせ先

横浜市市民局スポーツ振興課

〒231-0017 横浜市中区港町1丁目1番地

TEL：045-671-3583 FAX：045-664-0669

URL：<http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/sports/>